

Newsletter No. 14

Maxillofacial Prosthetics

発行人 石上友彦

編集 広報委員会

事務局 〒135-0033 東京都江東区深川 2-4-11 一ツ橋印刷(株) 学会事務センター内

Tel : 03-5620-1953 Fax : 03-5620-1960

E-mail : max-service@onebridge.co.jp

第 29 回学術大会案内



大会長 田中 貴信

(愛知学院大学)

~~~~~

会 期：平成 24 年 6 月 15 日（金）、16 日（土）

会 場：愛知学院大学 楠元講堂

〒464-8650 愛知県名古屋市千種区楠元町 1-10

Tel : 052-759-2152

~~~~~

歴史ある日本顎顔面補綴学会の第 29 回総会・学術大会のお世話係を務めさせていただくことになりました。当講座が担当させていただくのは 1990 年の第 7 回大会以来となりますが、以来、既に 22 年が経過したとは、感無量でございます。

特別講演は、愛知県がんセンター中央病院形成外科部長であり、東海地区の形成外科領域で広くご活躍されております、兵藤伊久夫先生に、「機

能再建を目指した皮弁再建（仮題）」と題する講演を行っていただきます。大変興味深いご講演を拝聴できると思います。また、今回の教育研修会では、「多施設共同研究のノウハウ」というテーマで講演が開催されることになっており、非常に有意義な研修会になるものと思われます。さらに今回は、「顎顔面補綴におけるデジタルテクノロジー」と題したシンポジウムを企画しております。近年、さまざまな分野に応用されているデジタルテクノロジーを顎顔面補綴学分野に応用する可能性について、またその意義について、議論を進めたいと思います。

会員懇親会は前回と同様、学術大会初日の夜に設定させていただきました。名古屋ならではの華やかな夜を皆様にお楽しみいただけたと思います。

小生個人といたしましては、1976 年の研究会発足以来、13 回目のお世話係を務めさせていただくこととなりますが、今回が本会への最後のご奉公となります。これまで何らかの関わりがございました総ての皆様方に、告別式としてご参列いただきたく、心からお願い申し上げます。

第28回学術大会報告

平成23年6月3日（金）4日（土）の両日、富山国際会議場において野口 誠大会長（富山大学大学院）のもと、第28回日本顎顔面補綴学会学術大会が開催された。学術大会前日の2日（木）には各委員会、理事会および評議員会が行われた。

学術大会1日目には特別講演、シンポジウム、一般口演17題と認定医ケースプレゼンテーション1題の発表があり、翌2日目には学術委員会主催の第16回教育研修会と一般口演14題の発表が行われた。

いずれの発表・講演においても、質疑応答ではフロアのマイクの前に列をなすほど熱い討議が繰り広げられ、第28回学術大会は成功裏に閉会した。



特別講演



「口唇と脳機能」

西条寿夫先生

富山大学大学院医歯
薬学研究部認知・情動
脳科学専攻システム
情動科学講座
教授

口腔機能の改善は脳機能を改善すると考えられ、咀嚼による脳賦活効果は報告されている。しかし、口輪筋を中心とした口唇訓練による脳賦活効果は不明であり、西条先生はこの解明に取り組まれている。

講演のおもな内容は、“口腔顎顔面機能と脳機能”、“口腔顎顔面領域からの求心性情報に対する上丘の応答性”、“口唇閉鎖機能訓練の効果（健常

女性）”、“運動リハビリテーションにおける前頭極の役割”、“口唇閉鎖機能訓練の効果（高齢被験者）”の5つであった。

その中でとくに興味深かったのは、口腔リハビリ器具「パタカラ」を用いた口唇閉鎖運動の結果であった。健常女性対象では訓練後に最大口唇閉鎖力の向上が認められ、また、NIRS（近赤外線分光法）による実験結果からは前頭極と前頭前野などでOxy-Hb濃度変化量の増大が確認された。つまり、口唇閉鎖は咀嚼と比べて前頭極を賦活する作用が強いことが明らかになった。前頭極とは前頭前野の最前部であり、他の前頭葉領域を賦活することが判明した。

さらに、老健施設入所中の高齢者5人を対象に同様の口唇閉鎖訓練を行った結果、最大口唇圧、覚醒パターン、RSST、ADLだけでなく、日周リズムにまで改善が認められた。以上より口唇閉鎖訓練は、高齢者においても前頭極や前頭前野を賦活し、高次認知機能賦活の可能性が示唆された。

最後に、口腔顎顔面機能の再建は口腔顎顔面動作を正常化することにより、脳機能も含めたQOLの改善を行うとまとめられた。

（広報委員長 松山美和）

シンポジウム

「上顎欠損に対する新しいストラテジー —補綴と外科のコラボレーション—」

モデレータ：久保吉廣先生（徳島大学）

塩入重彰先生（横浜医療センター）

シンポジスト（下写真）：

山下善弘先生（九州歯科大学）

山下徹郎先生（恵佑会札幌病院）

本田公亮先生（兵庫医科大学）

小山重人先生（東北大学）



3日夕方、一般講演の後に「上顎欠損に対する新しいストラテジー ―補綴と外科のコラボレーション―」というテーマのもと4名の先生方によるシンポジウムが開かれた。



口腔腫瘍切除後の欠損に対して、形態的および機能的回復を行うにあたり、最終的に補綴によるアプローチを主体にするのか、再建手術による機能回復を目指すのか、患者のQOL向上を図るのにどのような方法が適切なのか、という問題を結論づけるのはとても難しく常に悩むところである。昨今の医療技術の進歩と共に口腔腫瘍の治療法は多様化し、上顎腫瘍切除後の再建においても様々な治療の選択肢が可能となりつつある。本学会でも顎顔面補綴診療ガイドラインを策定し、一定の方向性を提示しているが、最新の情報をもとに常にアップデートする必要がある。本シンポジウムでは、口腔外科医・歯科補綴医の各立場から、欠損に対する再建手法やインプラントを用いた顎顔面補綴治療について最新の情報が提供されると共に各施設での選択基準、そのアウトカムが示された。口腔外科・補綴科両者を交えての治療戦略に対するディスカッションが濃密に行われることが当学会の特徴であると考えているが、最新の情報をもとにそのディスカッションを定期的に行っていくことは有意義であると感じられた。また、治療方法の多様化が進めばさらに選択が難しくなってくることが予想されるため、これらの治療戦略のアウトカムを学会としてまとめ、さらなるアップデートのために情報発信していければ、と考えられた。

(広報委員 堀 一浩)

教育研修

大会2日目の午前から「顎顔面補綴患者の口腔ケア」のテーマのもと、月村直樹先生（日本大学）を座長に、静岡県立静岡がんセンター歯科口腔外科の大田洋二郎先生、同 衛生士鈴木美帆先生、日本大学歯学部附属病院歯科衛生室の瀬戸純子先生をお迎えし、教育研修会が行われた。



研修会の開始に先立って、月村座長（上写真）より本研修会の要旨について説明があった。すなわち、顎顔面補綴の患者さんは、顎骨や舌をはじめとした軟組織の形態変化により口腔の自浄作用は低下し、放射線治療、抗癌剤などの影響も加わり、多くの問題点を抱えている。患者さんのQOLの向上にあたり、口腔ケアの果たす役割は多く、補綴治療の技術と同様に重要であるというものである。

本教育講演では、総論として頭頸部癌治療に対して歯科が担う役割、チームアプローチの重要性、行政や関連団体への働きかけについて大田洋二郎先生に、各論の口腔ケア方法の確立、患者自身へのセルフケア実践への啓蒙について鈴木美帆先生と瀬戸純子先生にお話し頂いた。

1. がん患者の口腔ケアをおこなうために必要ながん治療の知識とケアの実際

―頭頸部がん治療に歯科がおこなう口腔ケアとは―



大田洋二郎先生

静岡県立
静岡がんセンター
歯科口腔外科

静岡がんセンターでは、口腔ケアを癌治療に組み入れる取り組みがなされており、さらに、癌患者の口腔領域の問題を地域で支える仕組みが構築されている

とのことであった。具体的には、化学療法、頭頸部の放射線治療を受ける患者、頭頸科の腫瘍患者は、術前に口腔内の評価と口腔清掃、感染巣の除去および治療法に応じた口腔衛生指導を行い、その後癌の治療を開始するというプログラムである。また、静岡がんセンターでは、多職種のチーム医療による癌治療の際に生じる有害事象に対処する体制が整っており、治療前にカンファレンスを行い、治療開始後は電子カルテにより情報の共有化が行われ、密な連携が行われているとのことであった。さらに、口腔ケアの標準化プログラムを作成、配布したところ放射線併用化学療法の治療の完遂率が84%から99%へと向上したと報告された。

近年、外来患者における抗癌剤治療患者が増加していることから、静岡がんセンターの口腔ケア体制は、病院内完結型から地域支援完結型の治療体制に移行されているとのことである。すなわち、地域の歯科医師への講習会の開催、マニュアルの作成、癌患者のための歯科医療連携マップの作成をされ、静岡がんセンターから地域の連携歯科医を紹介し、歯周検査や歯石除去、TBIを行った後に、がんセンターに入院、加療後は地域の連携歯科医院でフォローをされるシステムである。

国立がん研究センターと日本歯科医師会との連携が開始されたこともあり、癌治療における歯科の果たす役割が期待されているとお話された。

2. 頭頸部がん周術期において歯科衛生士が果たす役割と展望



鈴木美帆先生

静岡県立
静岡がんセンター
歯科口腔外科

静岡がんセンターでは、特に頭頸部癌周術期は、全症例に歯科衛生士の専門的口腔ケアと口腔衛生指導を行っており、その概要と代表的な症例を報告された。

頭頸部癌の周術期における歯科衛生士の役割として、口腔内環境の清潔を保持し、治療中のQOLの向上、術前術後を通じた人間的なかわりを構築することを挙げられていた。術前はセルフケアの指導を中心にを行い、舌、粘膜の清掃を指導するとともに、術後の形態変化を予測した口腔衛生指導や、治療内容に応じて個別化した対応を行っているとのことである。腫瘍部については、綿球で清拭をされているようである。

術後は、口腔内に付着した凝固した血液塊をスポンジブラシを使用して除去することから始めている。舌半側切除症例や皮弁による再建術を施行した症例では、術後6日目からケアを開始し、8日目にはセルフケアを開始されているそうである。

剥離上皮や乾性の付着物の除去に、白ごま油を使うなどユニークなケア方法を症例の提示とともに説明いただいた。

3. 慢性期の口腔ケア

瀬戸純子先生



日本大学歯学部
附属病院
歯科衛生士室

口腔腫瘍の切除後の患者さんの、術後数か月経過した経年的な口腔ケアのポイントについて、問題点の提示とその具体的対応方法について、非常に丁寧にご説明いただいた。

特に患者とのメンタル的なサポートの重要性が強調されていた。それらを通じて患者の口腔清掃に対する意識付けを図り、形態や性状が変化した複雑な口腔内の形態、および顎義歯の複雑な形態に対応すべく、患者の理解を促しながら口腔ケアを進めているとのことである。

特に患者とのメンタル的なサポートの重要性が強調されていた。それらを通じて患者の口腔清掃に対する意識付けを図り、形態や性状が変化した複雑な口腔内の形態、および顎義歯の複雑な形態に対応すべく、患者の理解を促しながら口腔ケアを進めているとのことである。

さらに、摂食機能療法科と共同で、術前から周術期、慢性期のケアに関与され、舌や口唇のストレッチを始め口腔機能の維持に参画されているとのことである。また術後に生じえる開口障害についても、必要に応じて開口訓練を提起するなど、

機械的な清掃を中心とする口腔衛生のみならず、広義の口腔ケアである口腔機能の維持に対して取り組まれていることをご紹介いただいた。

また、綿棒を使った顎義歯の清掃方法やエピテーゼ装着患者の顔面欠損部の皮膚のケア方法について症例をご提示され説明された。顎顔面補綴の臨床現場で遭遇する問題点、顎顔面補綴患者で特に必要とされる広義の口腔ケアを提示いただいた。

3名のご講演の後、フロアを交え活発な討議が行われた。口腔ケアの重要性については入院、施設、在宅を問わず、また担い手についても歯科医師、歯科衛生士はもちろん、看護師、言語聴覚士、介護士、患者、患者の家族など多岐にわたって関心が高まっており、巷でも口腔ケアに関する勉強会、講習会を多く目にするようになってきています。本学会における研修会でこの課題が取り上げられたことは非常に意義深く、会員一同、改めて顎顔面補綴治療の一環としての口腔ケア、顎顔面補綴患者に特化した口腔ケアの確立の重要性を再認識する機会となった。

(広報委員 中島純子)



関連学会報告

Advanced Digital Technology in Head and Neck reconstruction 4th International Conference

2011年5月5日から8日にドイツ、フライブルグにて、Advanced Digital Technology in Head and Neck reconstruction 4th International Conference が開催されました。本学会は頭頸部領域における、デジタルテクノロジーの応用をテーマとした学会であり、3年に一度開かれ



る学術大会では、歯科領域のみならず、頭頸部外科、形成外科、工学系、IT系などさまざまな領域から多数の参加者が集います。また、学会組織としては、学会員をもたず、学会誌の発行もないため、3年に一度の学術大会が大きなイベントであるというのも特徴的です。

本大会でも、招待講演を含め、101題の口演発表と45題のポスター発表が行われ、大変活発な討議が行われました。本学会員に関係するところでは、インプラント治療や顎変形症治療へのナビゲーションサージェリーの応用、エピテーゼ製作における3Dモデリング法の応用、顎義歯フレームワーク製作におけるCAD/CAMの応用などが発表されていました。また、6つのワークショップも催され、新しい知識や技術の紹介を見ることが出来ました。技術の紹介を行うワークショップでは、実際に体験することも出来るものも多く、参加者からも好評を得たようでした。また、参加企業のブースでは、最新のテクノロジーも紹介され、日本への導入が待たれるところです。

また、大会に先立ち、North America、および、日本のRegional Meetingも行われ、各地域での今後の活動状況、方向性なども話し合われました。次回の大会は2014年に開催予定です。

(愛知学院大学 吉岡 文)



老年歯科医学会第 22 回学術大会

さる 6 月 15 日から 17 日まで、東京都の京王プラザホテルにて日本老年歯科医学会第 22 回学術大会が開催されました。今年は、メインテーマ「活力ある長寿社会をめざして」のもと、日本老年医学会をはじめ 7 学会の合同開催となりました。

大会最終日、日本歯科医学会の委託を受けて日本補綴歯科学会と合同で行った、「摂食・嚥下障害、構音障害の口腔内補助装置のガイドラインに関するプロジェクト研究」の報告として、ミニシンポジウム「PAP（舌接触補助床）の基本と現在までにわかっていること」が行われました。まず、「PAP の原理と診療ガイドラインについて」と題して小野高裕先生（阪大）が、健常者と舌切除者の嚥下時の舌と口蓋の接触状態、舌圧を示され PAP の意義を明瞭にご教示されました。さらに、全国 12 大学 3 病院による症例収集を元に、VF の動画を交え「適応と効果について」を中島純子（防医大）が、「製作方法と調整方法」をフローチャートと実際のチェアサイドでの調整の動画を用いて古屋純一先生（岩医大）が非常にわかり易くご説明されました。

舌接触補助床は顎顔面補綴領域での適応が起源です。しかし、近年の摂食・嚥下障害に対する歯科の取り組みの拡大、平成 22 年に保険医療に「摂食機能療法に伴う舌接触補助床」が記載されたことに伴い、その適応は器質的欠損のない患者（脳血管障害など）にも広がりつつあります。それを反映し、本ミニシンポジウムも関心が高く満席、質疑も活発に行われました。

来年の第 23 回大会は、6 月 22、23 日茨城県のつくば国際会議場で開催予定です。

（広報委員 中島純子）



14th Meeting of the International College of Prosthodontists

隔年開催される ICP のミーティングが、今年は 9 月 8 日（木）～ 12 日（月）に米国ハワイ島（通称、ビッグ・アイランド）のヒルトン・ワイコロア・ビレッジで開催され、日本からも大勢の参加者とたくさんの発表があった。



今回のミーティングはおもに 2 つの Focus session、8 つの Concurrent session と Poster session から構成されていた。11 日（日）午前には、現 ISMR 会長の Dr John Wolfaardt（カナダ）（上右写真）と Dr Rhonda Jacob（米国）（上左写真）がモデレータで Concurrent session “Maxillofacial Prosthetics” が開催された。聴講者の中には JAMP のメンバーもたくさんいた。

スピーカーは 4 人で Dr Larry Brecht（米国）は “Cleft Palate in Infant to Adults: The Case for Simplified Care” と題して、ニューヨーク大学で行われている Nasoalveolar Modeling Therapy (NAM) の紹介とその 504 例（1984-2011）からの考察を、Dr John Wolfaardt（カナダ）は、 “Implant in Maxillofacial Reconstruction: Towards Functional Outcome” と題して、上顎欠損へ応用した Rohner Technique、治療法のシフトや治療効果について講演された。また、Dr Gerald Grant（米国）は “Digital Technologies, the future of Dentistry”, Dr Mark Chambers（米国）は “Effects of Radiation Therapy” と題して講演された。

また、書籍販売コーナーでは、前週に刊行されたばかりの『Maxillofacial Rehabilitation Third Edition』を 15% 割引で購入できた。

今回の ICP は “Maxillofacial Prosthetics” がひとつのセッションであったため、情報収集や

意見交換が容易に行え、私たち JAMP 会員にとってはより有意義な学会であった。

(松山美和)

日本咀嚼学会第 22 回学術大会

10 月 29、30 日の両日、特定非営利活動法人日本咀嚼学会第 22 回学術大会が、田中貴信教授（愛知学院大学）を大会長に、大会テーマ『[咬]や[嚙]とは異なる[咀嚼]を咀嚼する』を掲げ、名古屋市ウインクあいち（愛知県産業センター）にて開催された。この学会の特徴のひとつは学際的事であることだが、本学術大会でも口腔生理学、補綴歯科学、栄養学をはじめとする多研究領域から多くの参加者があった。

『咀嚼』に関する 13 題の口演発表と 17 題のポスター発表があり、口演会場でもポスター会場でも活発な討議が行われた。ポスター発表の中には、浅見和哉先生（愛知学院大学）の「顎骨欠損患者の顎義歯装着による咀嚼機能回復の検討」など、顎顔面補綴学領域に重なる演題もあり、興味深かった。



また、渡邊 誠先生（東北福祉大学）による「健康な咀嚼を支える噛み合せ」と題した特別講演と、大澤敏夫先生（愛知学院大学心身科学部）による「酸化ストレスのコントロールと健全な食生活」と題した基調講演が行われた。渡邊先生は長年のご研究に基づいた「データが示す正常像」を教示され、大澤先生のご講演では『「守りの栄養学」から「攻めの栄養学」へ』というコンセプトが非常に印象的であった。

さらに“健康咀嚼士のためのシンポジウム”として、『咀嚼しやすい食品を考える』をテーマにシンポジスト 4 人が講演した。神山かおる先生



（独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構）は総説を、林 祐介先生（EN 大塚製薬）、吉川峰加先生（広島大学）と田村真也先生（フジッコ株式会社）は新開発の各『咀嚼しやすい食品』について企画動機から商品特性、科学的裏付けまでを含めて紹介された。

学会終了後には、『食育の再考』をテーマに市民フォーラムが開催され、沖本公繪先生が座長を務められた。

われわれ顎顔面補綴学会としても、「咀嚼」は改善・回復すべき口腔機能の最重要課題のひとつであるため、咀嚼機能自体だけでなく、関連する栄養摂取や栄養状態、食行動などの情報もまた重要事項と考えられる。今後も日本咀嚼学会との継続的情報交換の必要性が再認識させられた学術大会であった。

(松山美和)

関連学会の案内（平成 24 年）

●第 29 回日本口腔インプラント学会九州支部学術大会

大会長：松井孝道

日 程：1 月 21 日（土）～ 22 日（日）

会 場：宮崎シーガイアコンベンションセンター

問合せ：〒 880-0841 宮崎県宮崎市大島町原ノ前 1445-35

宮崎インプラント研究会事務局

（ねい歯科医院内）

TEL：0985-29-7169 / FAX：0985-29-7164

●第 30 回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会

大会長：出雲俊之

日 程：1 月 26 日（木）～ 27 日（金）

会 場：大宮ソニックシティ

問合せ：〒 362-0806 埼玉県北足立郡伊奈町小室 818

埼玉県立がんセンター口腔外科内

TEL：048-722-1111 / FAX：048-723-5197

Newsletter No. 14

Maxillofacial Prosthetics

●第 35 回日本嚥下医学会総会・学術講演会

大会長：兵頭政光

日 程：2 月 10 日（金）～ 11 日（土）

会 場：総合あんしんセンター

問合せ：〒 780-8505 高知県南国市岡豊町小蓮
高知大学医学部耳鼻咽喉科顎教室内

TEL：088-880-2393 / FAX：088-880-2395

●第 31 回日本口腔インプラント学会関東・甲信越支部学術大会

大会長：春日井昇平

日 程：2 月 11 日（土）～ 12 日（日）

会 場：京王プラザホテル（新宿）

問合せ：〒 102-8481 東京都千代田区麹町 5-1
弘済会館ビル 株式会社コングレ内

TEL：03-5216-531 / FAX：03-5216-5552

●第 65 回日本口腔科学会学術集会

大会長：岡本哲治

日 程：5 月 17 日（木）～ 18 日（金）

会 場：広島国際会議場

●第 36 回日本口蓋裂学会総会・学術集会

大会長：鈴木茂彦

日 程：5 月 24 日（木）～ 25 日（金）

会 場：国立京都国際会館

<https://v2.apollon.nta.co.jp/jcpa36/index.html>

●日本補綴歯科学会第 121 回学術大会

大会長：櫻井 薫

日 程：5 月 26 日（土）～ 27 日（日）

会 場：神奈川県民ホール ほか

問合せ：〒 261-8502 千葉市美浜区真砂 1-2-2

東京歯科大学有床義歯補綴学講座

TEL：043-270-3933 / FAX043-270-39350

<https://apollon.nta.co.jp/jps121/index.html>

●第 53 回日本歯科放射線学会学術大会

大会長：小豆島正典

日 程：6 月 1 日（金）～ 3 日（日）

会 場：岩手県民情報交流センター

●日本老年歯科医学会第 23 回学術大会

大会長：那須郁夫

日 程：6 月 22 日（金）～ 23 日（土）

会 場：つくば国際会議場

問合せ：（財）口腔保健協会コンベンション事業部

TEL：03-3947-8891 / FAX：03-3947-8873

<http://www.kokuhoken.jp/gero23/>

コンテンツ

第 29 回学術大会案内	1
第 28 回学術大会報告	2
関連学会報告	5
関連学会の案内（平成 24 年）.....	7

・皆様のご意見をお寄せください。

日本顎顔面補綴学会広報委員会

委員長 松山美和

委 員 関谷秀樹, 堀 一浩, 中島純子
山口能正

TEL：088-633-9213, FAX：088-633-7898

E-mail：miwa@dent.tokushima-u.ac.jp

〒 770-8504 徳島市蔵本町 3-18-15

徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部